

徒然なるままに

人間科学科卒業生 石井裕明

はじめに

教養学部創設30周年おめでとうございます。記念号に執筆の機会を得ましたことを多くの方々に感謝申し上げます。

今年は私にとっての節目が重なりました。人間科学専攻卒業から20年。人間情報学研究科博士課程後期退学後に就職して10年。恩師前田明伸先生の最終年。9月からは文学部教育学科で非常勤講師をしています。教養学部ではありませんが、1年生の開講科目ですので慣れ親しんだ泉キャンパスでお世話になっております。週に1度、帰省しているような感覚もあります。囚らずも、配当された教室は20数年前に新入生オリエンテーションで通った教室でした。懐かしさとともに、当時の記憶が蘇りました。人間科学専攻での4年間の思い出を中心に大学院人間情報学研究科での4年間やその後の10年について徒然に書きますことをお許しください。

人間科学での4年間

振り返れば様々な人と出会い、多くの経験を得ることができた4年間でした。卒業から20年経ちますが、当時の友人達とは定期的に集まってお互いの近況報告をしています。仕事、結婚、子育てと話題に変化はありますが、学生の頃の思い出話に花が咲きます。

人との出会いと同様に学問との出会いも重要なものでした。当時は、CAP制がありませんでしたので、4年間で200を上回る単位を取得した同学年の学生がいたと記憶しています。私は模範的な学生ではありませんでしたので、授業に関してはあまり多くを思い出すことはできませんが、幾つか。三浦典郎先生がご担当されていた「人間科学基礎論」では、蜂の八の字ダンスやヒューマン・サイバネティクスについて講義を受けました。特にヒューマン・サイバネティクスは興味深く、字を書きなぐることの多い私ですが、珍しく丁寧にノートを取っていたことを覚えています。津上誠先生の「文化人類学」では、魔女ミランダの絵を描

いたことを思い出しました。後期の土曜日5コマで出席者が多くなかったような気がします。大江篤志先生の授業では遅刻して入室し、注意されたことを覚えています。大江先生には、大学院でもお世話になり、現在の職場でもお世話になっており、浅からぬご縁を感じております。他にも、記号論や心理学、教育工学など私にとって魅力的な科目が沢山ありました。

なかでも、前田明伸先生との出会いは現在の私にとって大きなものでした。きっかけは、1年次にスポーツ実技の抽選で第一希望のソフトボールにはずれ、たまたま空きのあった前田先生のサッカーを受講したことに始まります。はじめのうちは、隣のラグビー場でソフトボールをしている友人を羨ましく思っていました。徐々にサッカーの授業が面白くなってきました。当時、先生のサッカーでは受講者が4、5名ずつ、授業回ごとの輪番で、運動中の心拍数を計測することとなっていました。授業前に先生から心拍計を受け取り、装着して多少窮屈な思いをしながらサッカーをして、終了後に返却。翌週には先生からデータシートと処方を受けられるという流れでした。水泳部に所属していた私は、コンディショニングやトレーニング処方にも興味をもち始めたころでもありました。

2年次には、英語原典を講読する演習で Fox の Sports Physiology を読んだことになっています。この演習ではスポーツ生理学の基礎基本について学び、最大酸素摂取量や呼吸交換比、乳酸などの単語にも初めて触れました。英語の成績が悪かった私が、興味をもって取り組めたのも Fox の Sports Physiology と先生のお陰と言えるでしょう。乳酸は、卒業論文、修士論文、博士論文の中核となりましたが、その時はまだメンタルトレーニングやメンタルコンディショニングを学びたいという思いが強かったと記憶しています。

その思いは、3年次に前田先生のゼミに入ってから暫くは変わらず、他のゼミ生がテーマを決めていく中で、なかなか決まらなかった私は、「高橋彌穂先生のところで、脳波を測ってみるか」なんて話しもありましたが、最後には運動強度と血中乳酸濃度に落ち着きました。同じゼミの陸上部の学生が乳酸を扱うとのことで、測定の手伝いをしていて機器との相性が良かったことが「石井も乳酸でどう」につながったと記憶しています。

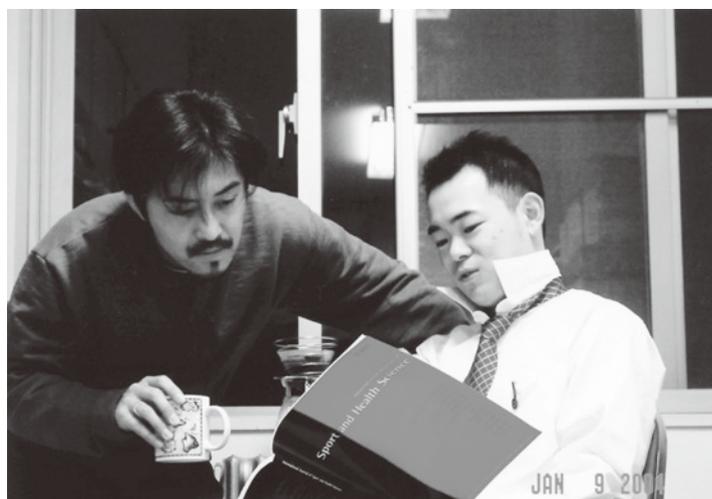
当時、箱根駅伝の優勝チームが用いていた、血中乳酸濃度に基づいたトレーニング強度設定が広く知られるようになっていた頃でした。競泳においても乳酸とトレーニング強度設定が注目されていたので、当時の話題のテーマに取り組めたことに感謝しています。他のゼミ生のなかには、一般用が出始めたばかりの携帯用 GPS を用いた研究もありました。私を含め5人のゼミ生は、各々やりたいことをやったという満足感があります。この時に身に付けた乳酸に関する知識と測定技術で、卒業論文を書き終えた直後から県内の競泳チームをはじめ弘前、いわきからも測定依頼をいただきました。おかげで、修士論文の被験者集めに困ることはありませんでした。

余談ですが、卒業論文提出間近のクリスマスには、先生と男ばかり5人のゼミ生で体育館の事務室でケーキを食べたことも忘れられない思い出です。

人間情報学研究科での4年間

それまでの人生でこれほどまでに知識を詰め込んで、言葉の一つひとつを深く考えたことはありませんでした。苦手な英語も少しはわかるようになったのではないかと思います。博士論文を完成されることはできませんでしたが、スキー実習や実験実習でティーチング・アシスタントとして授業の仕方も学ばせていただきました。学部生時代とは違い、多くの先生方と係わる機会を頂戴し、様々なご教示をいただきました。「一升瓶の乗り方」「海の広さと深さ」「ゼミ運営」中でも主査である高橋彌穂先生には、研究に対する情熱と姿勢を教えていただいたと思っています。「毎日数式を一つ解いてから寝る」「論文は家で読む」「研究と教育をどのようにつなげるか」など際限がありません。最近の自分の姿を顧みると、彌穂先生にお見せすることは憚られます。書きながら猛省いたしております。また、心理学や社会学、情報系の大学院生との異分野交流をすることで知識の幅を広げることができました。院生仲間に結婚式へ招待されルーマニアまで行くこともできました。今、私は大学で教員をしていますが、その多くは大学院の4年間で身に付けたものですので、この4年が無ければ今の私はないでしょう。

大学入学時、就職は高校教員、興味のある学問は心理学で選んだ学部でした。しかし、心



理学実験実習のレポートで挫折し心理学を断念しましたが、スポーツ科学の面白さに気付くことができました。教員採用試験に合格できず高校教員を半ば諦めて、大学院に進学しましたが、現在教員養成系大学で教員をしていますし、母校で非常勤ながら教育に携わることができています。

何が正しい選択かわからないものですね。



履歴

卒業年度 1998（平成10）年度

卒業学科 教養学部教養学科人間科学専攻

ゼミ担当教員 前田明伸先生

現職 東北文教大学 人間科学部 子ども教育学科 准教授